

「野中式事例検討」とは、日本福祉大学研究フェロー、日本精神障害者リハビリテーション学会長等を歴任された故野中猛先生が生み出し、全国各地で実践されている事例検討の方法です。
先生は、2013年7月24日にご逝去なされました。

野中式 事例検討



さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール

(札幌市基幹相談支援センター)

1. 事例提供者を決める
2. 自己紹介・機関紹介
3. 事例の把握
 - ①概要：プレゼン
 - ②全体像：質問⇔答え
4. アセスメント
 - ①現状の査定
 - ②背景の理解
 - ③主要主題の把握
5. プランニング
 - ①目標
 - ②計画
6. まとめ（感想交流・疑問確認）

きょうの時間の流れ

15:10

事例の把握

①提出理由は？

15:15

②輪郭は？(プレゼン)

15:25

③全体像は？(質問⇔答え)

発散する

アセスメント

①現状は？

収束する

②背景は？

③で、要約したら？

アセスメントの要約

16:00

16:10

プランニング

①夢、希望、目標は？

発散する

②取り組むことは？

16:50

③具体的な計画は？

収束する

17:00

プランの完成

事例検討の実際(参考)

イントロダクション

見立て

手立て

① 概要把握
5~10分

② 全体像把握
60~70分
<計65~80分>

③ アセスメント
5~10分
<計70~90分>

④ 支援目標設定
15~20分
<計85~110分>

⑤ 支援計画策定
5~10分
<計90~120分>

収束

発散

収束

発散

⑤ 収束

①

②

③

④

⑤

a. 思考の方向

b. 第1次思考
(分類・整理)

c. 第2次思考
(洗練・統合)

まとめ

串刺し思考法

断面的思考法

野中式事例検討のルール

1. 場のルール

- 守秘義務
- 日常の立場、役割から離れて「頭を自由に」
- どんな質問、意見も安心して話せる環境

2. 参加者のルール

- 非難、批判しない
- 質問は一人一つ
- ホワイトボードを見ながら（メモなし）
- できるだけパスしない

3. 事例提供者のルール

- 事例提供者は事実を回答
- 推測、思いは事実と分けて
- 「分からない」もok

ホワイトボードの活用-2

支援目標設定 ▶ 支援計画策定

【支援目標】

- #1.医療情報確認
- #2.住宅改造検討
- #3.面接セッティング
- #4.健康時の生活情報把握
- #5.心理的背景の把握
- #6.興味・関心の発見
- #7.できること探し
- #8.生活サイクルの把握
- #9.家族情報把握
- #10.ホームヘルプの検討

